

2025年度 第2回北海道レフェリーアカデミー 事業報告

報告者：高橋陽斗(十勝地区)

【日時】2025年4月26日(土) 4月27日(日)

【場所】TOMASEI フットボールフィールド

【参加者】審判員：二谷夢翔、鈴木辰汰、高橋陽斗

インストラクター：古曾部統太郎氏(RAM)、今川一輔氏(RAI)、岡田渉氏(RAI)

オブザーバー：藤井陽一氏((公財)北海道サッカー協会審判委員会委員長)

山崎裕彦氏(JFA 審判マネージャー)、西村雄一氏(JFA 審判マネージャー)、

丑屋幸大氏(RAC 4期生)

4月26日(土)

9:00 集合 TOMASEI フットボールフィールド

12:00 試合実践① 2025年度 苫小牧地区高等学校サッカー春季大会 1回戦

苫小牧中央高校 vs 静内高校 主審：二谷 担当 INS：岡田 RAI・西村氏

〈自己分析〉

チーム戦術を早い段階で理解し、チームの良さはもちろん、一人一人の良さを引き出す。そして事象に対し、最終的な決定をするまでの過程の動き出しの部分で予期予測をし、余裕をもって事象まで到達し、見極めの精度を高めることを意識して試合を行った。

判定基準については、試合にマッチしたものであり良かったと考える。特に試合序盤で静内高校の20番の選手の体格が良く、アジリティーの良さを持ち味としていると理解できたため、相手から多少の影響を受けていても状況によっては流し、静内高校の攻撃に繋げることができたと考える。

ポジショニングについては、最も重要なペナルティーエリア内の事象を結果的に近い距離、良い角度で監視することができていたと振り返る。だが、ポジションを決めるための考慮事項をもっと増やす必要があると考える。両チームの選手がいつ、どこで、何をしようとしているのか、などを常に考えて動き出し、ポジションを取る必要があると考えた。そうすることで、事象だけではなく状況も把握することができ、起こり得る事象も予測でき、実際に起こった際にも説得力のあるポジションで笛を吹けると感じた。

〈INS分析〉

二谷主審のストロングポイントの1つは運動量なので、これに頭を使う(考えながら動く)事をプラスできれば更にいいパフォーマンスになると感じた。例えば…ゴール前での事象についてはPA内まで入り見極めようとする姿勢は十分に評価ができるが、それに伴うリスクを考えながらポジションを取っているか(特にペナルティーアークに何度か入っていたが、その後の跳ね返りのリスクを考えたり、そもそもその位置にいる事で争点を串刺しで見えていたりしないか)。



14:00 試合実践② 2025 年度 苫小牧地区高等学校サッカー春季大会 1 回戦
苫小牧東高校 vs 合同(苫小牧南高校・白老東高校・浦川高校)

主審：鈴木 担当 INS：今川 RAI

〈主審分析〉

ハンドの反則の理解が足りなく、適切に判定することができなかつたのでまずは競技規則の理解を深めたい。また、マネジメントの部分の強弱（競技者を注意等する際）がずっと課題だったが今回はそれが顕著に現れた。これからチャレンジして適切な対応ができるように務めたい。



〈INS 分析〉

鈴木さんのパフォーマンスで無事に試合を終えることができたことは評価できる。また、負傷者の対応の早さと気付きは主審として良い対応でした。改善点は4点。

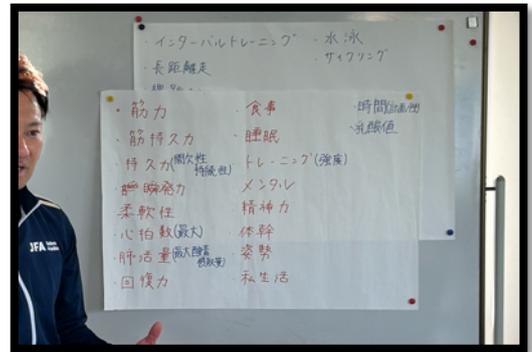
- ① 主審としての威厳を保ち時には笑顔を捨て厳しく注意するなど対応すること。
- ② ハンドの定義を理解する（※次回アカデミーで講義内容として扱う）
- ③ 副審との協力（差し違いが起こる前にできることはないか。副審の様子を観察してから主審としてシグナルを示す。）
- ④ 予期予測をして早く動き出す。（後追いが多く、争点から引き離されることが多かった。キックモーション、キッカーの視線、FW の動き出しなど考慮すると良い）

15:50 試合振り返り

16:30 フィジカル講義『高強度(Physical check 変遷)』担当：岡田 RAI

本講義では、前回の振り返り(Physical の基本)を再確認した上でなぜ Physical check を行うのかを考えた。また、Physical check の中にもある YO-YO Test (Intermittent recovery Test)がどのようなテストであるのかを確認し、間欠性持久力を高めるトレーニングは何があるのかを模造紙に書き出した。

そして、前回模造紙に書き出した Physical の基本に新たに基本だと思うことを書き加え、アップデートした。



17:30 諸連絡・解散

4月27日(日)

9:45 集合 TOMASEI フットボールフィールド

10:00 講義『判定について』

西村雄一氏(JFA 審判マネージャー)



本講義では判定について学んだ。自分が最終的なディシジョン（決定）に至るまでにどのように考え、動き、見極め、マネジメントしているのかを細かく言語化をしながら確認をした。

また、西村氏が最後に仰っていた「今日の講義は全部忘れていい。最後は自分の感覚を基にやって欲しい。」という言葉について、もちろん講義内容を忘れることはないが、サッカーを理解し、競技者の心情を汲み取り、観客含めその試合に関わるすべての人がサッカーを楽しむことができるように、自分の感覚を磨いていかなければならないと強く感じた。

11:30 講義『レフェリングについて』山崎裕彦氏(JFA 審判マネージャー)

本講義では近年、JFA ではどのような制度を日本サッカー協会の審判委員会が行っているのかを学んだ。また、山崎氏の経験と現在のシステムを織り交ぜながら 1 級審判員とその上の世界というのはどのようなものなのかを知ることができた。そして審判員として最後は心の成長が大切であるということに身に染みて感じる事ができた。



12:30 昼食

13:00 ディスカッション『RAC 開校式の地域紹介に向けた準備』

開校式に向けた準備を行なった。審判員として北海道ならではの起こってしまうことや北海道でしかない確認しなければならないことを話し合い、より印象に残る地域紹介の制作を進めた。

14:00 Physical check YOYO+speed Test

40m Sprint Test（6本）ではランニングフォームを撮影し、後日個人分析を行なった。休息の時間含めすべて JFL プール審判員の Physical check と同じ時程で行うことで、意識が高揚した。

- ・40m Sprint Test 2人 平均：5.60 秒
- ・YO-YO Test 2人 平均：46 本